

中間連結財務諸表

当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前中間連結会計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)及び当中間連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)の中間連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人の中間監査を受けております。

中間連結貸借対照表(資産の部)

(単位:百万円)

区 分	平成28年 9月30日	平成29年 9月30日
現金預け金	79,678	49,608
有価証券	224,278	238,226
貸出金	488,456	499,331
外国為替	2,097	615
リース債権及びリース投資資産	1,858	1,798
その他資産	6,481	3,063
有形固定資産	12,830	11,879
無形固定資産	2,696	2,276
退職給付に係る資産	416	422
繰延税金資産	20	299
支払承諾見返	779	991
貸倒引当金	△3,238	△2,882
資産の部合計	816,356	805,630

中間連結貸借対照表(負債及び純資産の部)

(単位:百万円)

区 分	平成28年 9月30日	平成29年 9月30日
預金	710,616	707,793
譲渡性預金	54,110	50,393
借入金	350	415
外国為替	4	—
その他負債	6,943	2,995
賞与引当金	164	156
退職給付に係る負債	1,353	1,340
利息返還損失引当金	6	—
睡眠預金払戻損失引当金	215	263
偶発損失引当金	161	143
繰延税金負債	345	37
再評価に係る繰延税金負債	1,356	1,317
支払承諾	779	991
負債の部合計	776,406	765,848
資本金	14,743	14,743
資本剰余金	1,294	1,294
利益剰余金	17,767	18,921
自己株式	△43	△44
株主資本合計	33,762	34,915
その他有価証券評価差額金	2,869	1,519
土地再評価差額金	2,421	2,430
退職給付に係る調整累計額	124	114
その他の包括利益累計額合計	5,416	4,064
非支配株主持分	771	802
純資産の部合計	39,950	39,781
負債及び純資産の部合計	816,356	805,630

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

区 分	平成28年 9月中間期	平成29年 9月中間期
経常収益	7,354	6,937
資金運用収益	4,682	4,170
(うち貸出金利息)	(3,300)	(3,164)
(うち有価証券利息配当金)	(1,349)	(979)
役員取引等収益	1,276	1,449
その他業務収益	684	604
その他経常収益	711	712
経常費用	6,323	5,641
資金調達費用	122	96
(うち預金利息)	(110)	(90)
役員取引等費用	436	493
その他業務費用	485	512
営業経費	5,144	4,484
その他経常費用	134	54
経常利益	1,031	1,296
特別利益	—	1
固定資産処分益	—	1
特別損失	34	13
固定資産処分損	34	13
税金等調整前中間純利益	997	1,284
法人税、住民税及び事業税	164	262
法人税等調整額	△76	37
法人税等合計	87	299
中間純利益	909	984
非支配株主に帰属する中間純利益	12	7
親会社株主に帰属する中間純利益	897	977

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

区 分	平成28年 9月中間期	平成29年 9月中間期
中間純利益	909	984
その他の包括利益	△927	△13
その他有価証券評価差額金	△924	△11
退職給付に係る調整額	△3	△2
中間包括利益	△18	970
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△30	961
非支配株主に係る中間包括利益	12	8

中間連結株主資本等変動計算書

平成28年9月中間期

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	14,743	1,294	17,250	△43	33,245
当中間期変動額					
剰余金の配当			△380		△380
親会社株主に帰属する中間純利益			897		897
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分			△0	0	0
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)					
当中間期変動額合計	—	—	516	△0	516
当中間期末残高	14,743	1,294	17,767	△43	33,762

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	3,794	2,421	127	6,344	761	40,351
当中間期変動額						
剰余金の配当						△380
親会社株主に帰属する中間純利益						897
自己株式の取得						△0
自己株式の処分						0
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	△924		△3	△927	10	△917
当中間期変動額合計	△924	—	△3	△927	10	△400
当中間期末残高	2,869	2,421	124	5,416	771	39,950

平成29年9月中間期

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	14,743	1,294	18,324	△44	34,318
当中間期変動額					
剰余金の配当			△380		△380
親会社株主に帰属する中間純利益			977		977
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分			△0	0	0
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)					
当中間期変動額合計	—	—	596	△0	596
当中間期末残高	14,743	1,294	18,921	△44	34,915

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,531	2,430	117	4,079	795	39,194
当中間期変動額						
剰余金の配当						△380
親会社株主に帰属する中間純利益						977
自己株式の取得						△0
自己株式の処分						0
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	△12		△2	△15	6	△8
当中間期変動額合計	△12	—	△2	△15	6	587
当中間期末残高	1,519	2,430	114	4,064	802	39,781

中間連結財務諸表

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

区 分	平成28年 9月中間期	平成29年 9月中間期
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	997	1,284
減価償却費	555	530
貸倒引当金の増減(△)	△253	△281
賞与引当金の増減額(△は減少)	△35	△27
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△8	△8
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△24	5
利息返還損失引当金の増減額(△は減少)	△2	—
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)	1	△5
偶発損失引当金の増減額(△は減少)	△11	△15
資金運用収益	△4,682	△4,170
資金調達費用	122	96
有価証券関係損益(△)	△288	△98
為替差損益(△は益)	△0	△0
固定資産処分損益(△は益)	34	12
貸出金の純増(△)減	△2,851	△10,265
預金の純増減(△)	4,892	15,479
譲渡性預金の純増減(△)	4,970	1,704
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	30	△60
預け金(日銀預け金を除く)の純増(△)減	△725	2,684
コールローン等の純増(△)減	5,000	—
コールマネー等の純増減(△)	△56	—
外国為替(資産)の純増(△)減	△1,704	△129
外国為替(負債)の純増減(△)	3	—
リース債権及びリース投資資産の純増(△)減	59	57
資金運用による収入	4,951	4,291
資金調達による支出	△133	△105
その他	3,479	△2,654
小計	14,320	8,323
法人税等の支払額	△199	△67
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,121	8,256

区 分	平成28年 9月中間期	平成29年 9月中間期
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△30,603	△32,996
有価証券の売却による収入	23,173	8,808
有価証券の償還による収入	16,296	9,911
有形固定資産の取得による支出	△157	△90
無形固定資産の取得による支出	△972	△174
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,736	△14,541
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△13	—
配当金の支払額	△376	△376
非支配株主への配当金の支払額	△2	△2
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の売却による収入	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△392	△378
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	21,465	△6,663
現金及び現金同等物の期首残高	49,549	54,414
現金及び現金同等物の中間期末残高	71,015	47,751

1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社 2社
会社名
株式会社大東クレジットサービス
株式会社大東リース
- (2) 非連結子会社
該当ありません。

2. 持分法の適用に関する事項

該当ありません。

3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社の中間決算日は次のとおりであります。
9月末日 2社

4. 開示対象特別目的会社に関する事項

該当ありません。

5. 会計方針に関する事項

- (1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法
商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は移動平均法により算定)により行っております。
- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法
有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券については原則として中間連結決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)、ただし、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。
なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
- (3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法
デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
- (4) 固定資産の減価償却の方法
 - ① 有形固定資産
有形固定資産は、定率法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。))並びに平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。
また、主な耐用年数は次のとおりであります。
建 物 8年~50年
その他 3年~20年
 - ② 無形固定資産
無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。
- (5) 貸倒引当金の計上基準
当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。
破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。
上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。
なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は8,753百万円であり、
連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。
- (6) 賞与引当金の計上基準
賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間連結会計期間に帰属する額を計上しております。
- (7) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準
睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの将来の払戻請求に備えるため、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。
- (8) 偶発損失引当金の計上基準
偶発損失引当金は、信用保証協会に対する責任共有制度負担金の支払いに備えるため、過去の実績に基づき、将来の支払見込額を計上しております。

(9) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間連結会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、過去勤務費用及び数理計算上の差異の費用処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用 その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理
数理計算上の差異 各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生時の翌連結会計年度から費用処理

なお、連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る当中間連結会計期間末の自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(10) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

当行の外貨建資産・負債は、中間連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

なお、連結子会社は、外貨建資産・負債を保有しておりません。

(11) リース取引の処理方法

(借手)
該当ありません。

(貸手)

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準は、リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

リース取引開始日が会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号 平成19年3月30日)第81項に基づき、会計基準適用初年度の前連結会計年度末における固定資産の適正な帳簿価額(減価償却累計額控除後)をリース投資資産の期首の価額として計上しております。

また、当該リース投資資産に関して、会計基準適用後の残存期間における利息相当額の総額をリース期間内の各期に定額で配分する方法によっております。

(12) 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、中間連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。

(13) 消費税等の会計処理

当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。